

令和4年度第6回 聖籠町経営戦略推進会議 議事要旨

日 時 令和4年11月18日（金）15：00～16：15
場 所 聖籠町役場3階 大会議室
出席委員 宍戸委員（会長）、五十嵐委員、石田委員、加藤委員、小林委員、佐藤委員、菅原委員、手嶋委員、細野委員
欠席委員 三上委員
事務局 高松副町長、高橋総合政策課長、小林総合政策課長補佐、今井主任
事業担当課 萩原総務課長、加藤町民課長、松井保健福祉課長、小野長寿支援課長、高橋生活環境課長、渡邊産業観光課長、澁谷東港振興室長、須貝教育未来課長、天野子ども教育課長補佐、宮澤社会教育課長補佐

- 次 第
- 1 開 会
 - 2 議 事
 - (1) 前回会議の議事を踏まえた戦略の修正について
 - (2) 経営戦略に基づく取組内容について
 - 3 事務連絡
 - 4 閉 会

議事要旨

議事1 前回会議の議事を踏まえた戦略の修正について

○ 事務局から資料1「前回会議の議事を踏まえた戦略の修正について」に沿って説明。

会 長 経営戦略推進プランの位置づけについて、前回の議論を踏まえて、凡例を2種類（◎、○）に分け、総合計画との関係性をマトリックスのような形で落とし込んでいただいた。資料を拝見し、特に疑問はない。

未来投資戦略の「地域資源を活かした商工業・観光業の振興」の修正部分で、「他産業との協働による新たな付加価値の創出を促進する」とあるが、この表現について説明してほしい。

事務局 総合計画123ページを参考にした表現となっている。

会 長 総合計画では、「町農産物の素晴らしさを知っていただくためには、観光産業など他産業との協働が欠かせません。」とあるが、この主語は、「町の農業は」ということになると思う。

一方で、この表現をそのまま経営戦略推進プランに取り入れてしまうと、当該プランの全体的な主語が「町は」に統一されているため、「他

産業との協働」という表現では、上手く対応しなくなってしまう。その後続く「新たな付加価値の創出を促進する」という部分は、そのまま残しても問題ないと思う。

事務局 ご指摘のとおりだと思うので、修正したい。

会長 健康づくり支援戦略の「聖籠町健康づくり推進協議会（仮称）」の図表において、構成自体に問題はないと思うが、「町民」を役場の下に位置づけてはいけないのではないか。役場の横又は上に示すべきである。

事務局 この部分も修正したい。

議事2 経営戦略に基づく取組内容について

○ 事務局から資料2「経営戦略に基づく取組内容について」に沿って説明。

委員 「新潟東港地域における港湾機能の充実」と聞くと、町独自の取組のように思える。国・県との連携を強化することが主眼なのであれば、表現を再考してはどうか。

また、この「関係機関」とは、具体的にどこを指すのか。

東港振興室長 国と県を指している。新潟県において「カーボンニュートラルポート形成協議会」が立ち上げられ、これからどのような取組を進めるのか議論し始めたところである。

委員 今の説明を踏まえ、「関係機関」についても、分かりやすい表現に修正した方がよい。

会長 正直なところ、「カーボンニュートラルポート」について、あまり馴染みがない言葉だと感じた。このような言葉については、脚注で説明してはどうか。本文中の用語の脇に括弧書きで解説する方法もあるが、あまり本文が長くなると見づらくなってしまうので、この部分に限らず、全体を通して編集してもらいたい。

総合政策課長 一般の方々が疑問に思うことのないよう、脚注として説明書きを付したい。

委員 「新潟東港工業地帯」と「新潟東港地域」の2つの表記があるが、どのように異なるのか。

東港振興室長 前者は、工業団地など陸域をイメージされたい。後者は、港全体ということで、道路や岸壁を含めて充実させることにつながっていく。

委員 「新潟東港工業地帯の継続的発展の促進」の下に「新潟東港地域における港湾機能の充実」を位置づけているが、今の説明を踏まえると、両者が上手く噛み合わない気がする。

東港振興室長 果たして表現が適切か、改めて見直したいと思う。

会長 工業地帯の継続的発展を目指す方向性の下、「メインとして新增設・設備投資の促進に取り組み、そのために港湾機能を充実させる」ということであれば、ストーリーがつながらなくはないと思う。

委員 ふるさと納税について、現在返礼品は何品目あり、更なる充実の余地はどのくらいあるのか。

総合政策課長 返礼品については、異なる内容量の品物を別個として数えると約160品目となっており、様々な農家や企業と連携することで、一定程度揃えることができたものと認識している。

今後は、ニーズに合う形で提供していくことを考えている。一例として、現在5kg、10kg、30kgのコメを用意しているが、首都圏在住者にとっては、2kgを求める方が主流とも聞いているので、工夫してみたい。

委員 そのようなコメは、定期便で提供しているのか。

総合政策課長 コメの定期便であれば、5kgや10kgのものも申し込まれているが、更に多いのがパックご飯で、1月20食などの形で提供している。大家族よりも、一人暮らしの方の需要が多い。

委員 組織力向上戦略では「職員の創意工夫による行財政運営を図る」、「民間企業・学生の柔軟な発想を活かしたまちづくりを進める」などとあり、非常に大事なことだと思うが、その効果検証は、どのような手法を検討しているのか。

総合政策課長 この経営戦略推進会議で検証を行うことを想定している。委員の皆様から意見を頂戴し、改善を加えながら取り組んでいきたい。

会長 総合計画について、総合計画審議会に進捗管理をするのであれば、この会議での検証は、それと重複する部分も出てくると思われる。本日の資料において総合計画と経営戦略推進プランの関係性を示していただいております。総合計画とセットで進捗管理をする手法も考えられる。

町民への丁寧な説明も大事であるが、同時に町職員の負担にならないような工夫も必要である。

総合政策課長 経営戦略推進プランは、総合計画を横断的に捉え、優先・重点的に行うべき施策を進めるためのものであり、両者の検証作業には、当然重なる部分があると思う。職員のみならず、委員の皆様にも負担を掛けたくないような体制を検討していきたい。

会長 評価にエネルギーを使ってしまうと、職員が評価に対する認識を薄めてしまうことが懸念される。「評価疲れ」に陥ることのないよう、少ないコストで効果が得られるように検討されたい。

また、「多様な業務に従事できる人材を育成する」との表現について、いわゆる「ゼネラリスト」を指すのかと聞いていたが、事務局の説明によると、これは「専門性を活かした人材」を想定しているのか。

事務局 前回の行財政改革大綱62ページに「インフラ整備等に必要な専門知識や経験を有する職員が限られているなかで、多様な業務に従事するための組織の機動力の向上と合理化が必要です。」とあるうち「多様な業務」という言葉を引用したが、今回の文章にそのまま挿入してしまうと、意

味合いが変わってくると感じた。「一人が多様な業務に従事できるようにする」のではなく、「組織全体が多様な業務に対応できるようにしていく」ことを目的としているため、表現を修正したい。

会 長 「多様な業務」の指すところについて、行財政改革大綱と経営戦略推進プランとで異なるのであれば、それが伝わるように書き分けること。

委 員 「庁内横断的な取組による行政課題への対応」として、「町民目線に立ち」とあるが、どのように検証するのか。

会 長 「町民目線」というと、俗に言う「上から目線」の感があるので、例えば「町民の利便性の向上に資するよう」などの表現に修正してはどうか。町職員は、町民であるとともに、町役場の一員でもあり、「町役場の目線」というのは絶対抜けきらないと思う。

総合政策課長 指摘を踏まえて修正したい。

委 員 「町に縁のある著名人」という表現があるが、町がそのような人材を発掘するのか。

総務課長 基本的には、そのとおりである。町では、著名人の活躍に併せて町の知名度向上を図るために「特別大使」を創設したところであり、町の若手職員と商工会、観光分野の関係者で構成される委員会からの推薦に基づき、任命している。その著名人の活躍している分野に合った名称を用いることとしており、現在、女優の菅原りこさんに「文化・芸能大使」、読売巨人軍コーチの加藤健さんに「スポーツ大使」となっていたいでいる。